

# 想定する最大ユニットの考え方について

電力広域的運営推進機関  
平成28年2月1日

- 次年度以降のマーヅン算出に向け、最大電源相当量のマーヅンを確保している連系線における最大電源の想定の方え方を整理する。
  
- 対 象
  - 北海道本州間連系設備（北海道向き）
  - 北陸フェンス（北陸向き）
  - 中国四国間連系線（四国向き）

## 2. 基本的な考え方

### ■ 考え方

最大ユニットは「供給計画の案」をベースに想定する。具体的には以下のとおり。

- ✓ 供給計画の案について、広域機関が事業者から聴取した根拠や考え方を踏まえ、当該時期における最大ユニットと見込まれるものを想定。
- ✓ 供給計画の案から供給計画提出までの間の内容変更又は供給計画変更による最大ユニット想定の見込み変更については都度反映。

### 3. 年間作業停止計画の反映①

#### ■ 年間作業停止計画（2か年分）の反映

##### ● 対象

- ✓ 北海道本州間連系設備（北海道向き）
- ✓ 北陸フェンス（北陸向き）
- ✓ 中国四国間連系線（四国向き）

- 広域機関システム運用開始以降、連系線利用計画（年間）が日別単位に変更となることに伴い、年間作業停止計画を踏まえた最大ユニット想定のお考え方整理が必要。以下、第1年度、第2年度それぞれについて、月毎とした場合と日毎とした場合を比較評価

#### 《比較検討表》

項目	第1年度		第2年度		備考
	月毎	日毎	月毎	日毎	
混雑処理対応	○	△※	○	×※	日毎に最大ユニットを想定した場合、作業停止時期変更による混雑処理の可能性は高まる (※ 第2年度は第1年度より、停止時期変更の可能性が高い)
空容量	×	○	×	○	日毎に最大ユニットを想定した場合、月毎に想定した場合よりも空容量が多くなる日が増加する
総合評価	△	○	△	△	

第2年度は両案評価の大きな差異はないが、実需給断面に向け需給の予測精度が高まることを踏まえたマージン減少（第2年度→第1年度）を考慮し、第2年度分は月毎での想定とする。

# 3. 年間作業停止計画の反映②

## ■ 考え方

比較検討結果を踏まえ、以下のとおりとする。

- ✓ 第1年度は日毎に想定する最大ユニットを設定。

定修時の試運転パターンは、年間段階では不確定な部分が大きいため、最大出力で試運転している前提として、試運転期間中は「最大ユニット」として扱うものとする（作業停止終了扱いとする）。なお、試運転パターンが具体化してくる月間段階では試運転出力と「次に大きいユニット」の出力との比較により、必要に応じ、最大ユニット想定を見直す。

- ✓ 第2年度は月毎に想定する最大ユニットを設定。

## ○最大ユニット想定イメージ

### 【第1年度】

	○月	△月	□月
A (最大ユニット)	作業停止期間		試運転期間
B (次に大きいユニット)			
最大ユニット想定	A	B	A

### 【第2年度】

	○月	△月	□月
A (最大ユニット)	作業停止期間		
B (次に大きいユニット)			
最大ユニット想定	A	B	A